

野洲市役所	野洲市総合防災センター	野洲市健康福祉センター
☎ 077-587-1121 (代表) 24時間対応	☎ 077-518-0488 24時間対応	☎ 077-588-1788
社会福祉法人 野洲市社会福祉協議会		
☎ 077-589-4683		

※空欄にはみなさんの緊急時連絡先を記入してください。

インターネットによる情報の入手先

野洲市ホームページ

https://www.city.yasu.lg.jp/i/

野洲市防災メール配信サービス

https://plus.sugumail.com/usr/yasu/home

野洲市防災ポータル

https://portal-yasu.machiyell.jp/

滋賀県 防災ポータル

http://dis-shiga.jp/

しがが 滋賀県防災メール配信サービス

https://www.pref.shiga-info.jp/

国土交通省 川の防災情報

https://www.river.go.jp/

野洲市防災アプリ・防災ポータル

「野洲市防災アプリ」は、野洲市の防災情報を手軽に受け取れる野洲市公式の防災アプリです。市からのお知らせ、防災無線の放送内容、気象情報等、様々な防災情報をこのアプリで受け取ることができます。防災マップ機能では避難所や災害リスクを確認できます。また、同様の内容を「野洲市防災ポータル」で公開していますので、パソコンや防災アプリをインストールできない携帯の場合は、インターネットで「野洲市防災ポータル」を確認してください。

野洲市 防災

App store・Google playからダウンロード!

iPhoneはこちら▶

Androidはこちら▶

App Store からダウンロード

Google Play で手に入れよう

※野洲市防災ポータルでも同様の内容を公開しています。

テレビによる情報の入手例

- 1 NHK総合テレビを表示し、リモコンの「d(データ放送)」ボタンを押してください。
- 2 リモコンの矢印で「防災・生活情報」に合わせ、「決定」ボタンを押してください。
- 3 お住まいの市町(テレビに設定している郵便番号で判定)から情報が発信されていれば、「避難情報」「避難所開設情報」ボタンが赤くなるので、選択するとそれぞれの情報が表示されます。※県内のどこの地域にも情報がない場合は、ボタンがグレーになります(選択できません)。

災害用伝言ダイヤル171

このサービスは、大規模な災害が発生した場合、「声の伝言板」(安否情報)の役割をするNTTの電話サービスです。被災地内とその他の地域の人々との間などで、伝言の登録・再生をすることができます。

安否確認方法

171をダイヤル

伝言の録音は①をダイヤル → 伝言を入れる

伝言の再生は②をダイヤル → 伝言を聞く

被災地の方も、被災地以外の方も被災地の方の電話番号を市外局番からダイヤル

●〈体験利用日〉毎月1日と15日、正月(1月1日～1月3日)、防災週間(8月30日～9月5日)、防災とボランティア週間(1月15日～1月21日)

令和3年3月作成

野洲市

防災マップ

風水害に備えて

洪水・土砂災害ハザードマップについて	P1・2
洪水・土砂災害ハザードマップ	P3～16
洪水ハザードマップ(想定最大規模)	P17～22
地先の安全度マップ(200年降雨確率)	P23・24
風水害に備えて	P25～30

地震に備えて

地震ハザードマップについて	P31・32
地震ハザードマップ	P33～46
液状化危険度マップ	P47・48
地震に備えて	P49・50

災害に備えて

災害に備えて	P51・52
避難施設について	P53・54

●わが家の防災メモ

わが家の避難場所	避難場所までの移動時間	分
家族の集合場所(避難場所で会えなかった場合)	避難時の緊急連絡先	

●家族の連絡先

家族の名前	生年月日	携帯電話番号	血液型	会社・学校などの電話番号

〈発行〉野洲市 〒520-2395 滋賀県野洲市小篠原2100番地1 代表電話:077-587-1121

洪水・土砂災害ハザードマップについて

- この洪水・土砂災害ハザードマップ等に示す浸水想定区域は、国および県が見直しを行った浸水想定区域図の結果に基づいています。
- 浸水想定区域は、国が見直しを行った野洲川下流と、県が見直しを行った野洲川上流、日野川および琵琶湖のほか、中小河川等も考慮した地先の安全度マップの結果を反映しており、それぞれの解析は以下の想定規模で実施されています。

① 洪水・土砂災害ハザードマップ

→3ページ～16ページ

100年に1回程度発生するおそれのある降雨に基づく解析
(琵琶湖は200年に1回程度)

② 洪水ハザードマップ(想定最大規模)

→17ページ～22ページ

学術的に想定し得る最大規模の降雨に基づく解析

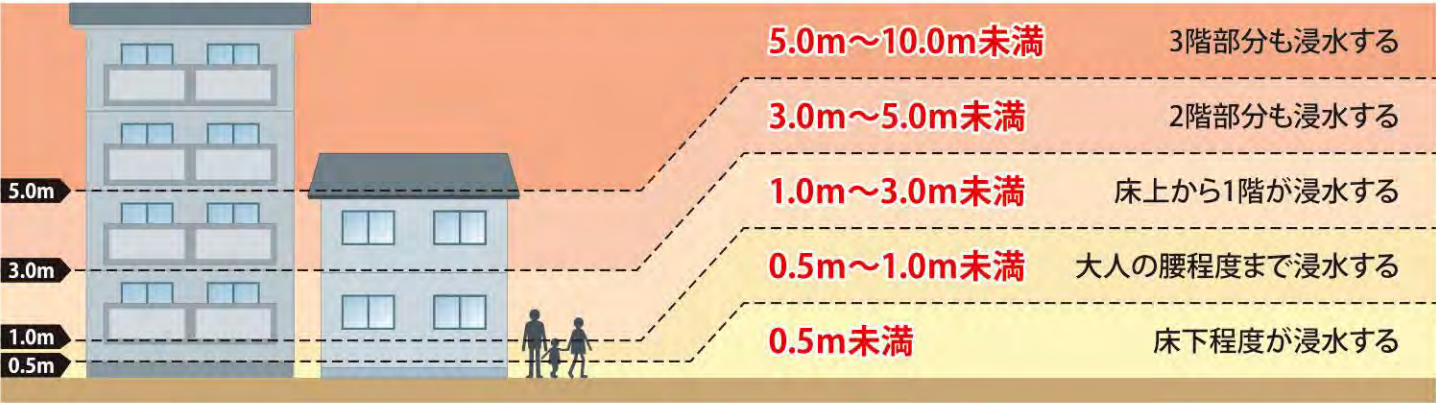
③ 地先の安全度マップ(200年降雨確率)

→23ページ～24ページ

この洪水・土砂災害ハザードマップでは、各河川の浸水想定区域と地先の安全度マップの解析結果を重ね合わせて、最も深くなる浸水深を、右ページに示す学区単位で3ページから16ページに示しています。また、想定最大規模の浸水想定区域を河川毎に17ページから22ページに市全域で示しています。23・24ページには、200年に1回程度の降雨があった場合の地先の安全度マップを掲載しています。

浸水深の目安

浸水深マップで色分けされた、浸水の深さの目安です。



土砂災害(特別)警戒区域

- 土砂災害警戒区域
土砂災害により、住民の生命または身体に危害が生じるおそれのある区域です。
 - 土砂災害特別警戒区域
土砂災害により、建物が破壊され、住民の生命または身体に著しい危害が生じるおそれがある区域です。
- 3ページ～12ページ

- 野洲川 24時間総雨量350mm
- 日野川 24時間総雨量228.7mm
- 琵琶湖 琵琶湖高水位B.S.L.+1.4m
- 地先の安全度マップ 24時間総雨量529mm

- 野洲川 24時間総雨量663mm
- 日野川 24時間総雨量738mm
- 琵琶湖 120時間総雨量555mm
(琵琶湖ピーク水位B.S.L.+2.6m)

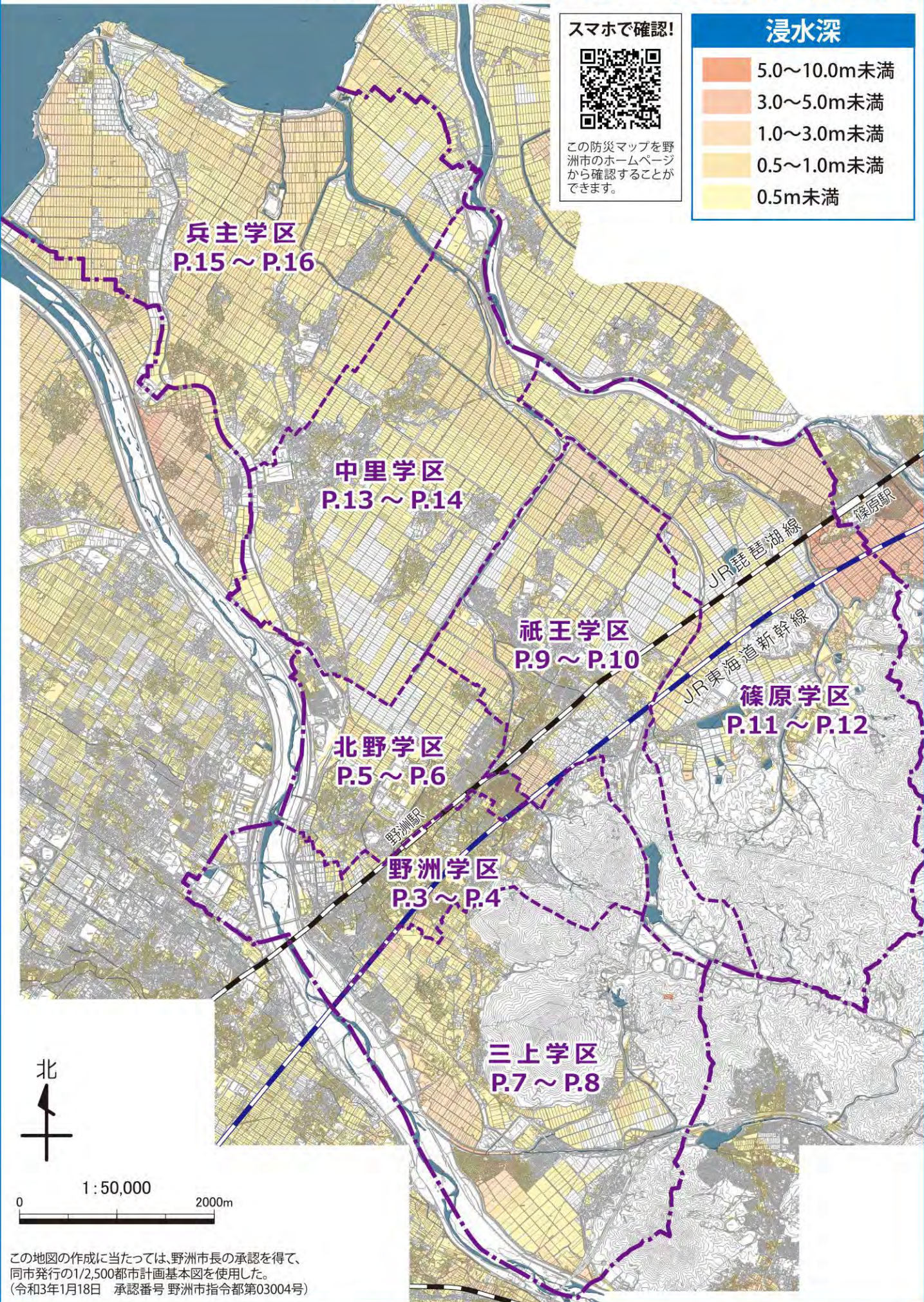
- 野洲川 24時間総雨量634mm

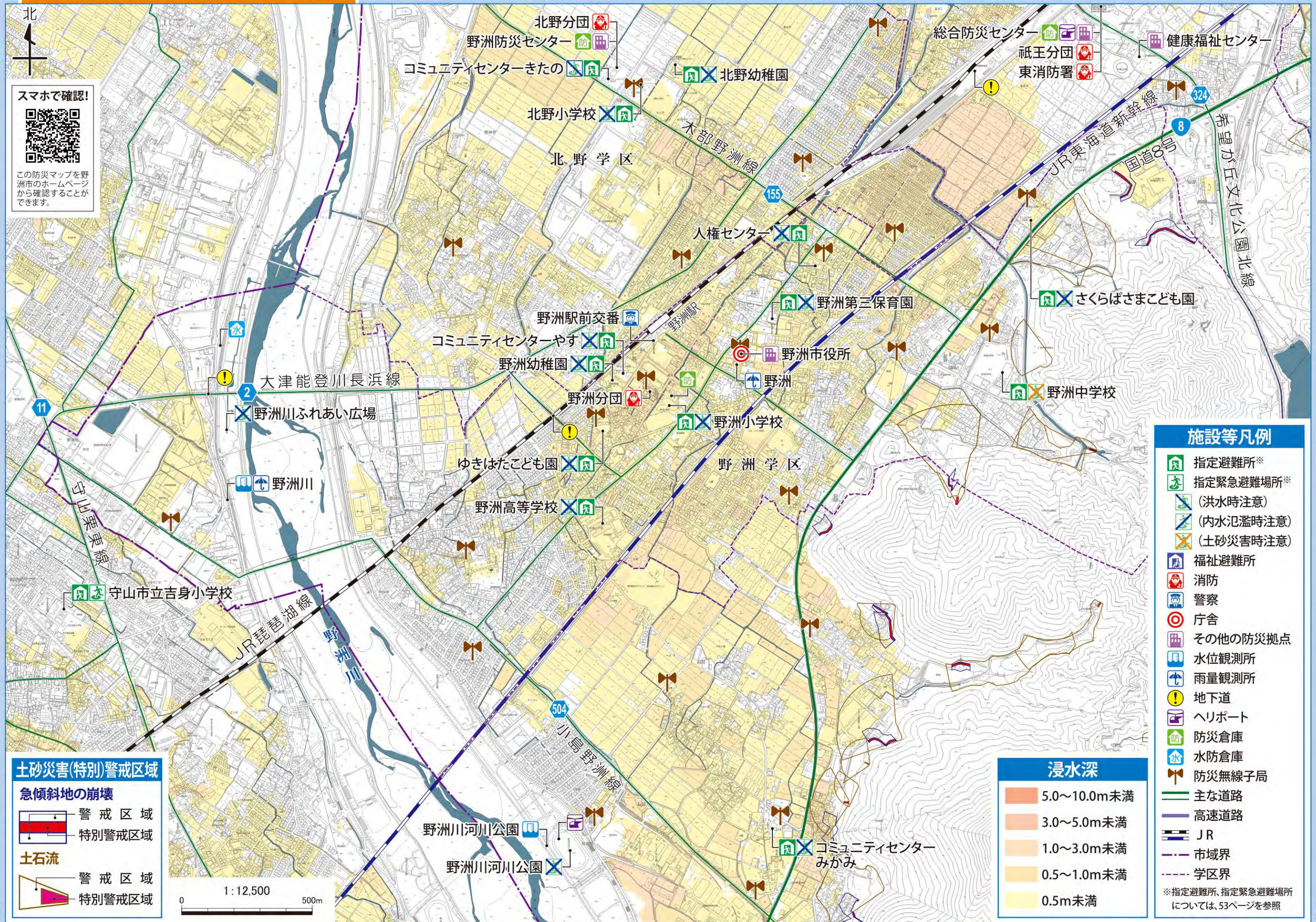
家屋倒壊等氾濫想定区域

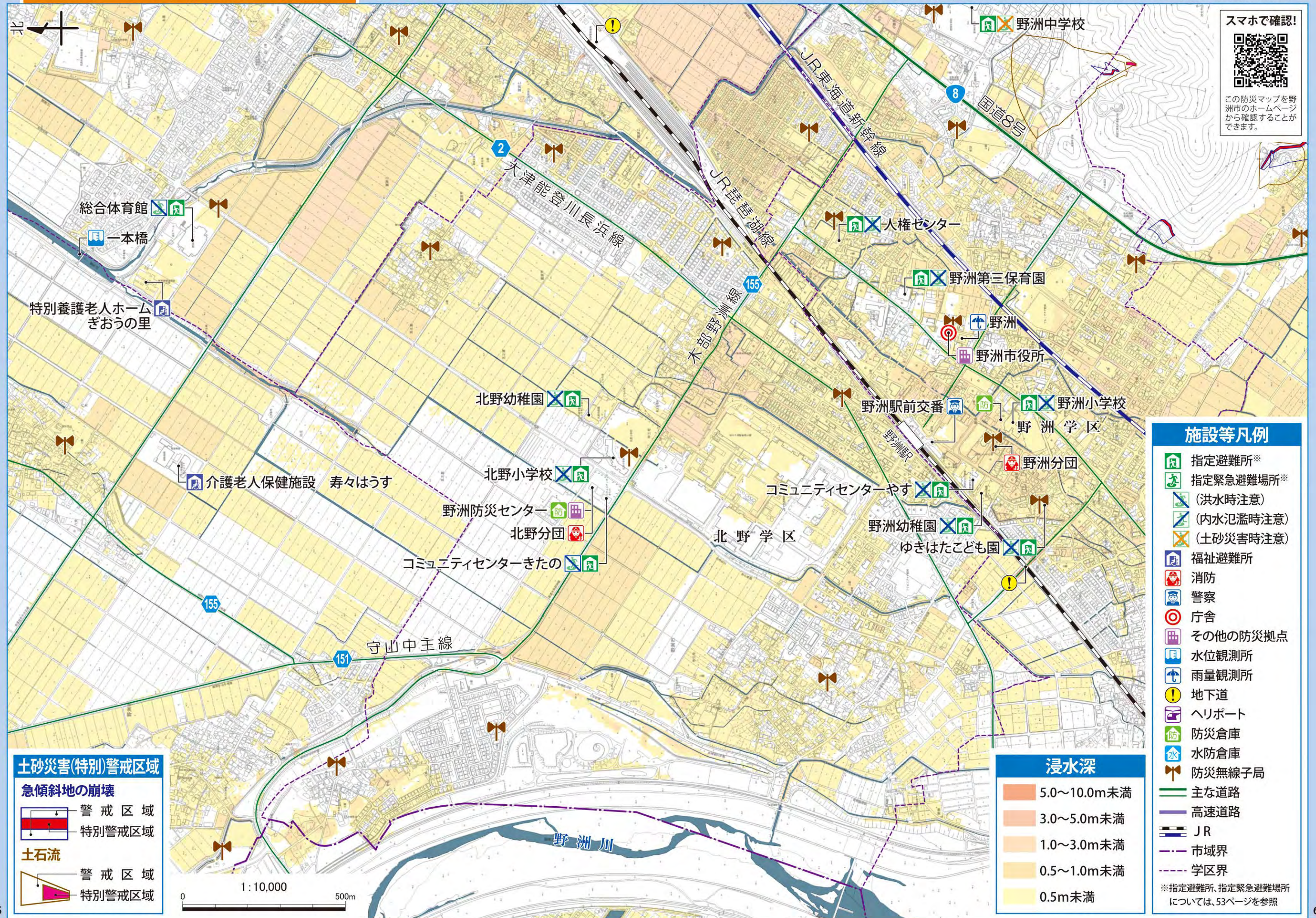
家屋倒壊等氾濫想定区域は河川の氾濫や河岸侵食により、家屋の倒壊・流失等の危険性がある区域の目安を示すものです。この区域は早期の立ち退き避難(水平避難)が必要となります。 →17ページ～20ページ

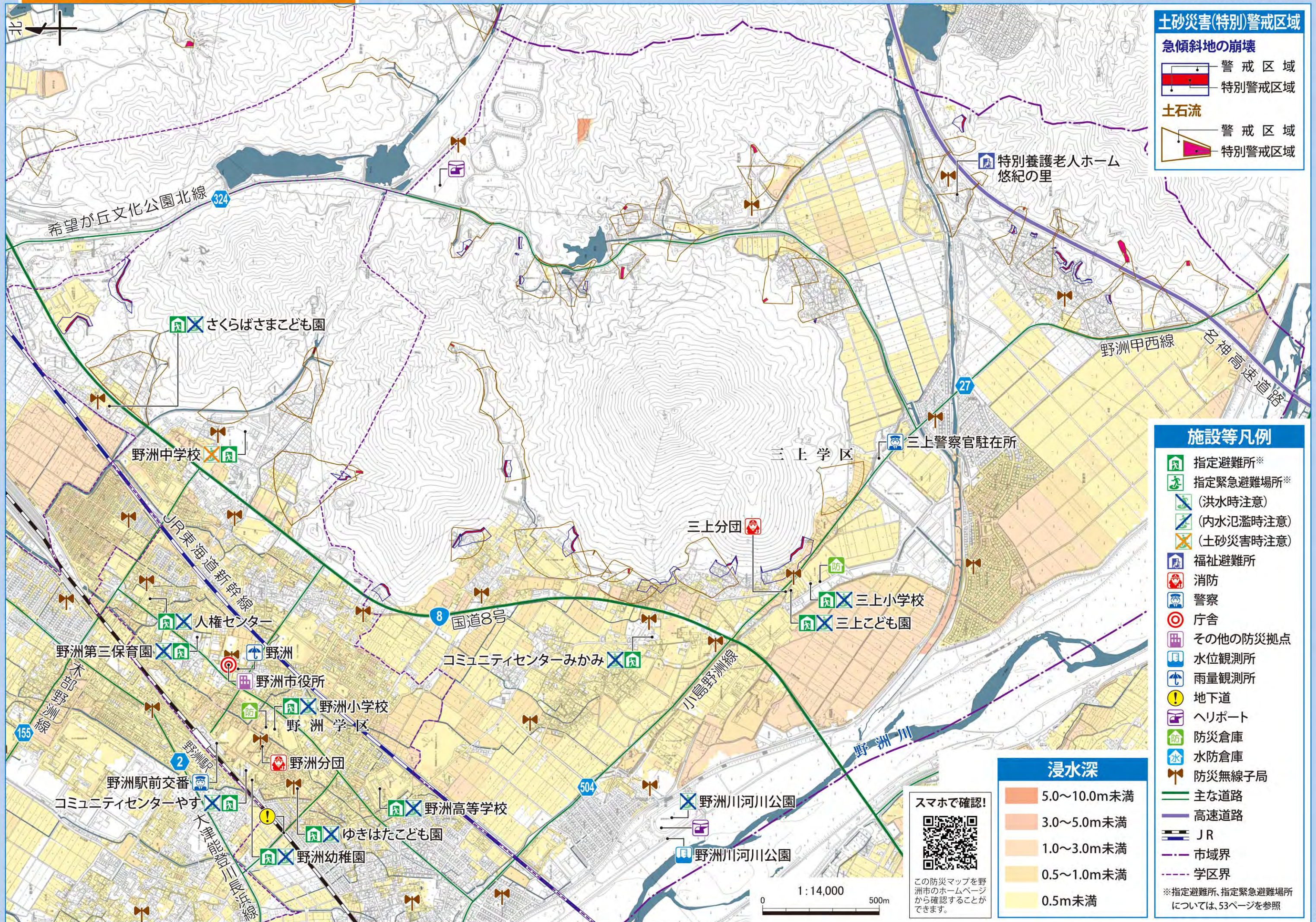
- 氾濫流
河川からあふれ出た水の流れにより、家屋が倒壊・流失するおそれがある範囲です。
- 河岸侵食
増水した河川の激しい流れによって河岸が削られることにより、家屋が倒壊・流失するおそれがある範囲です。

洪水・土砂災害ハザードマップ索引図









土砂災害(特別)警戒区域

急傾斜地の崩壊

- 警戒区域
- 特別警戒区域

土石流

- 警戒区域
- 特別警戒区域

施設等凡例

- 指定避難所※
- 指定緊急避難場所※
- (洪水時注意)
- (内水氾濫時注意)
- (土砂災害時注意)
- 福祉避難所
- 消防
- 警察
- 庁舎
- その他の防災拠点
- 水位観測所
- 雨量観測所
- 地下道
- ヘリポート
- 防災倉庫
- 水防倉庫
- 防災無線子局
- 主な道路
- 高速道路
- JR
- 市域界
- 学区界

※指定避難所、指定緊急避難場所については、53ページを参照

浸水深

- 5.0～10.0m未満
- 3.0～5.0m未満
- 1.0～3.0m未満
- 0.5～1.0m未満
- 0.5m未満

スマホで確認!

この防災マップを野洲市のホームページから確認することができます。

1:14,000

0 500m

施設等凡例

- 指定避難所※
 - 指定緊急避難場所※
 - (洪水時注意)
 - (内水氾濫時注意)
 - (土砂災害時注意)
 - 福祉避難所
 - 消防
 - 警察
 - 庁舎
 - その他の防災拠点
 - 水位観測所
 - 雨量観測所
 - 地下道
 - ヘリポート
 - 防災倉庫
 - 水防倉庫
 - 防災無線子局
 - 主な道路
 - 高速道路
 - JR
 - 市域界
 - 学区界
- ※指定避難所、指定緊急避難場所については、53ページを参照

スマホで確認!



この防災マップを野洲市のホームページから確認することができます。

土砂災害(特別)警戒区域

急傾斜地の崩壊

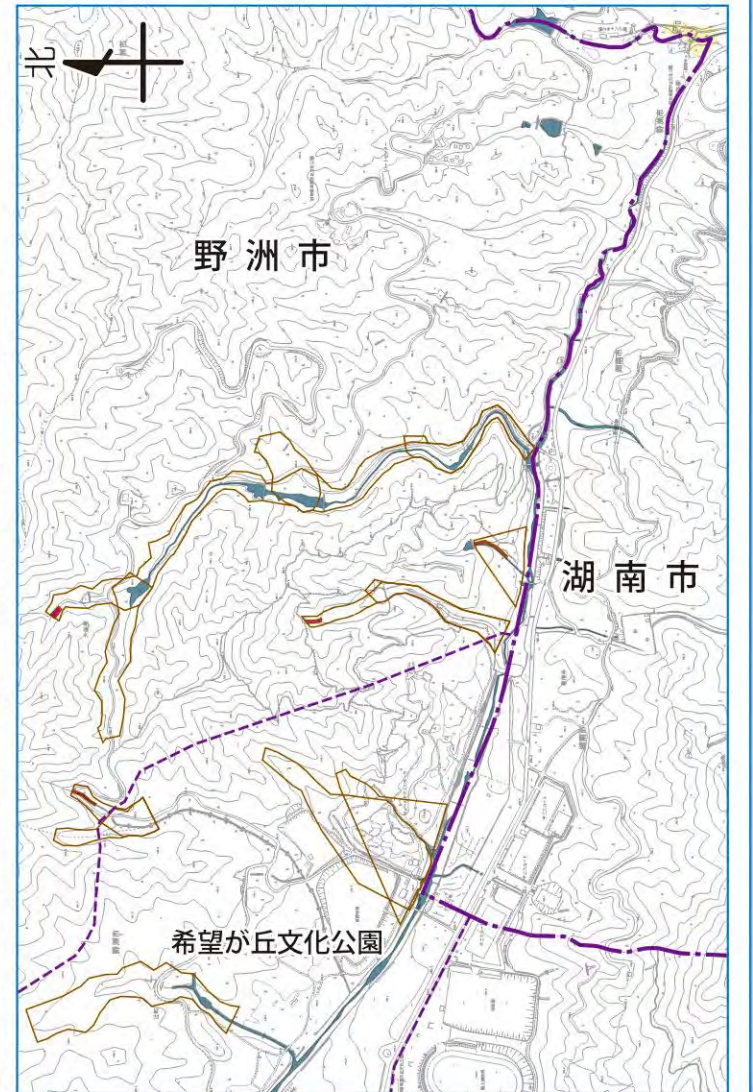
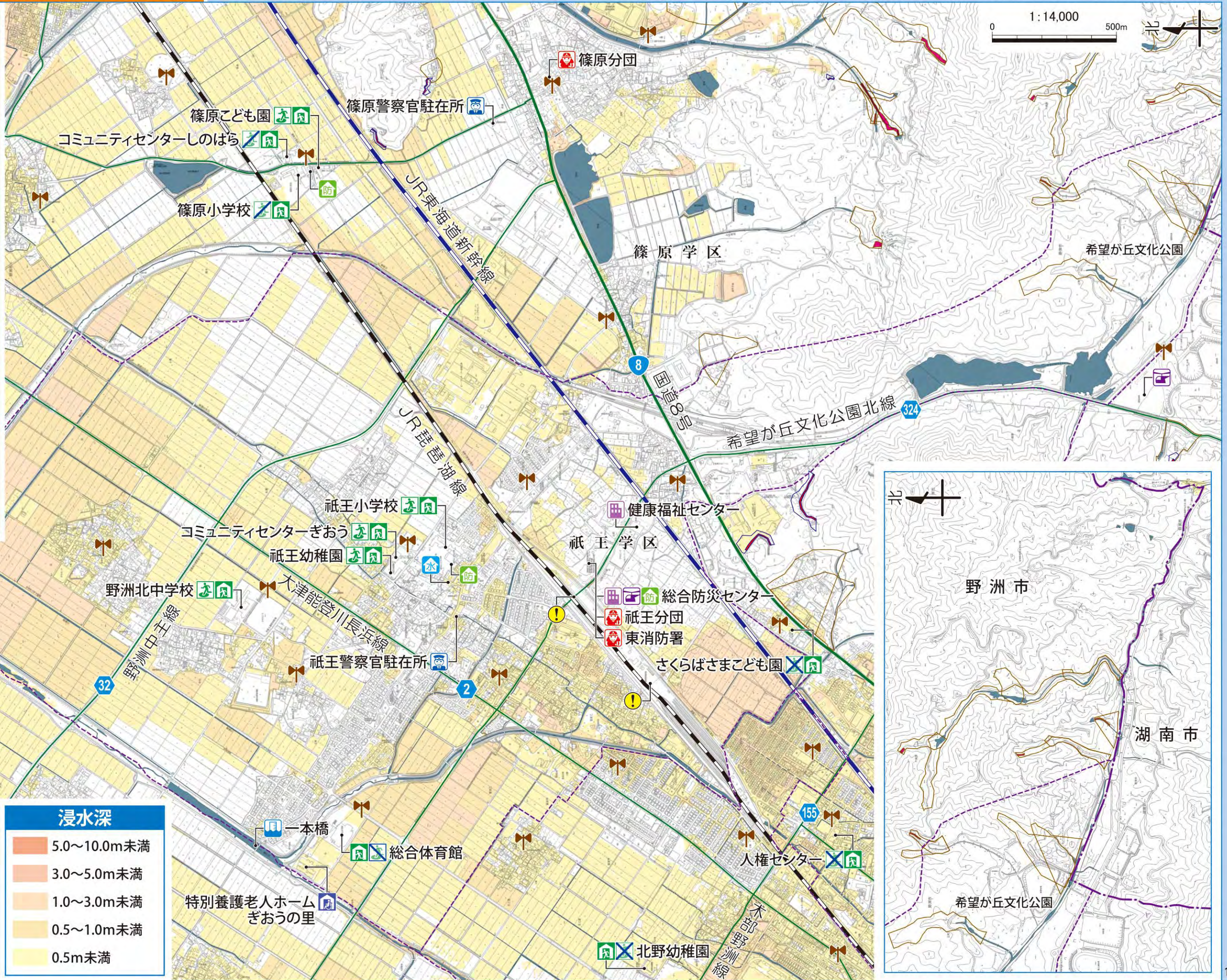
- 警戒区域
- 特別警戒区域

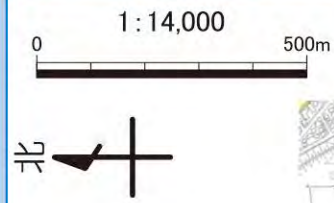
土石流

- 警戒区域
- 特別警戒区域

浸水深

- 5.0~10.0m未満
- 3.0~5.0m未満
- 1.0~3.0m未満
- 0.5~1.0m未満
- 0.5m未満

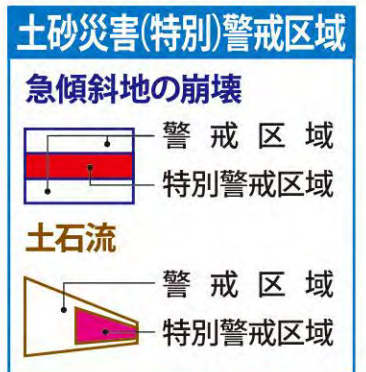
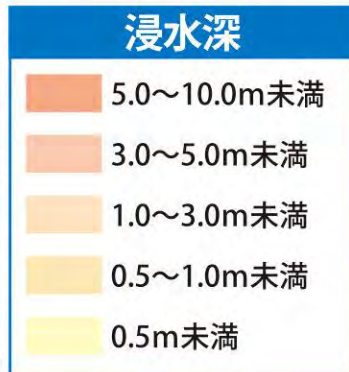
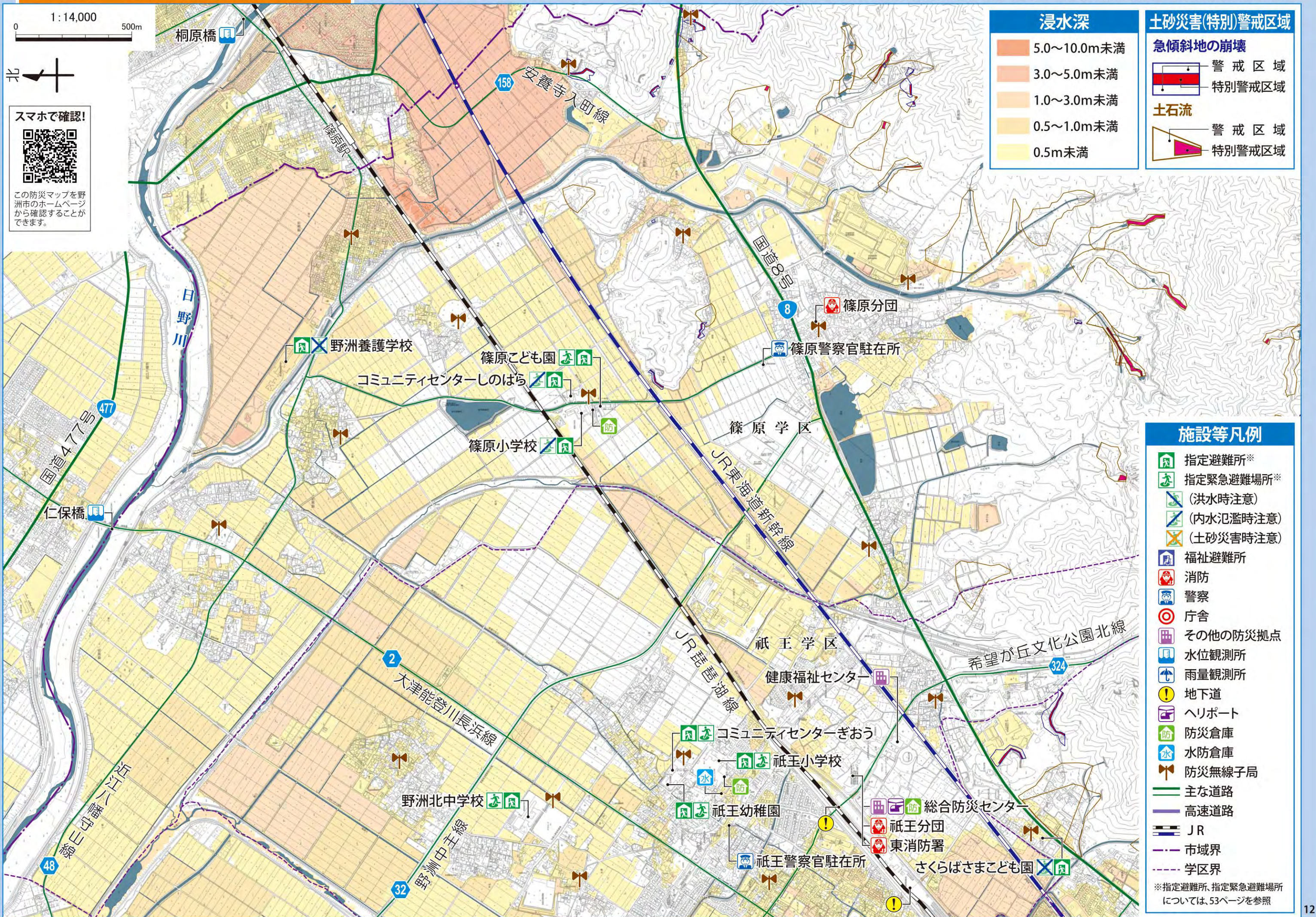




スマホで確認!



この防災マップを野洲市のホームページから確認することができます。



浸水深

- 5.0～10.0m未満
- 3.0～5.0m未満
- 1.0～3.0m未満
- 0.5～1.0m未満
- 0.5m未満

スマホで確認!



この防災マップを野洲市のホームページから確認することができます。

施設等凡例

- 指定避難所※
- 指定緊急避難場所※
- (洪水時注意)
- (内水氾濫時注意)
- (土砂災害時注意)
- 福祉避難所
- 消防
- 警察
- 庁舎
- その他の防災拠点
- 水位観測所
- 雨量観測所
- 地下道
- ヘリポート
- 防災倉庫
- 水防倉庫
- 防災無線子局
- 主な道路
- 高速道路
- JR
- 市域界
- 学区界

※指定避難所、指定緊急避難場所については、53ページを参照

土砂災害(特別)警戒区域

急傾斜地の崩壊

- 警戒区域
- 特別警戒区域

土石流

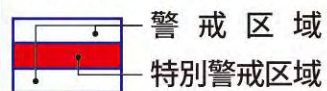
- 警戒区域
- 特別警戒区域





土砂災害(特別)警戒区域

急傾斜地の崩壊



土石流



1:17,500
0 500m

施設等凡例

- 指定避難所※
- 指定緊急避難場所※
- (洪水時注意)
- (内水氾濫時注意)
- (土砂災害時注意)
- 福祉避難所
- 消防
- 警察
- 庁舎
- その他の防災拠点
- 水位観測所
- 雨量観測所
- 地下道
- ヘリポート
- 防災倉庫
- 水防倉庫
- 防災無線子局

浸水深

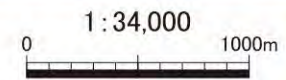
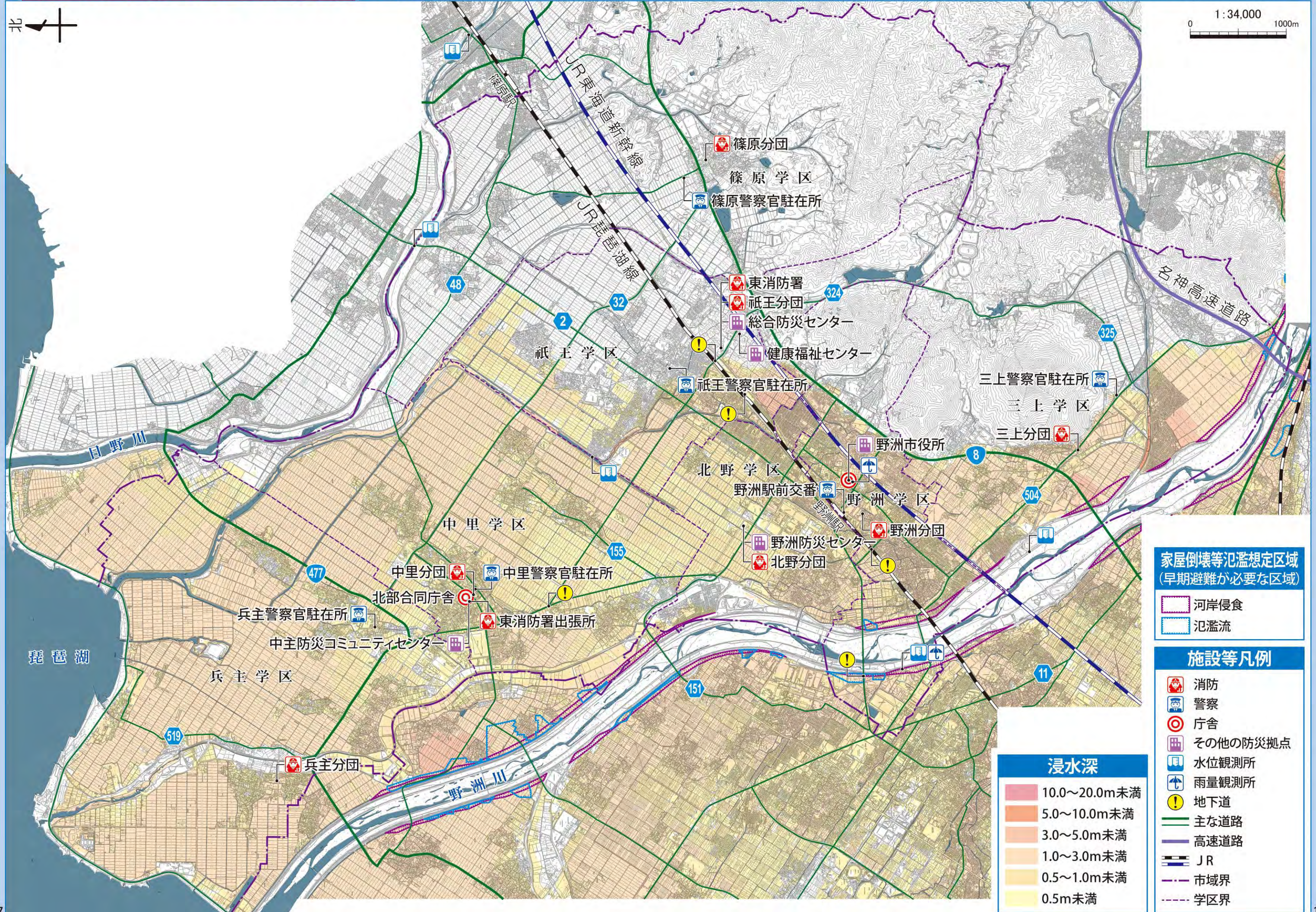
- 5.0～10.0m未満
- 3.0～5.0m未満
- 1.0～3.0m未満
- 0.5～1.0m未満
- 0.5m未満

スマホで確認!



この防災マップを野洲市のホームページから確認することができます。

※指定避難所、指定緊急避難場所については、53ページを参照



家屋倒壊等氾濫想定区域
(早期避難が必要な区域)

- 河岸侵食
- 氾濫流

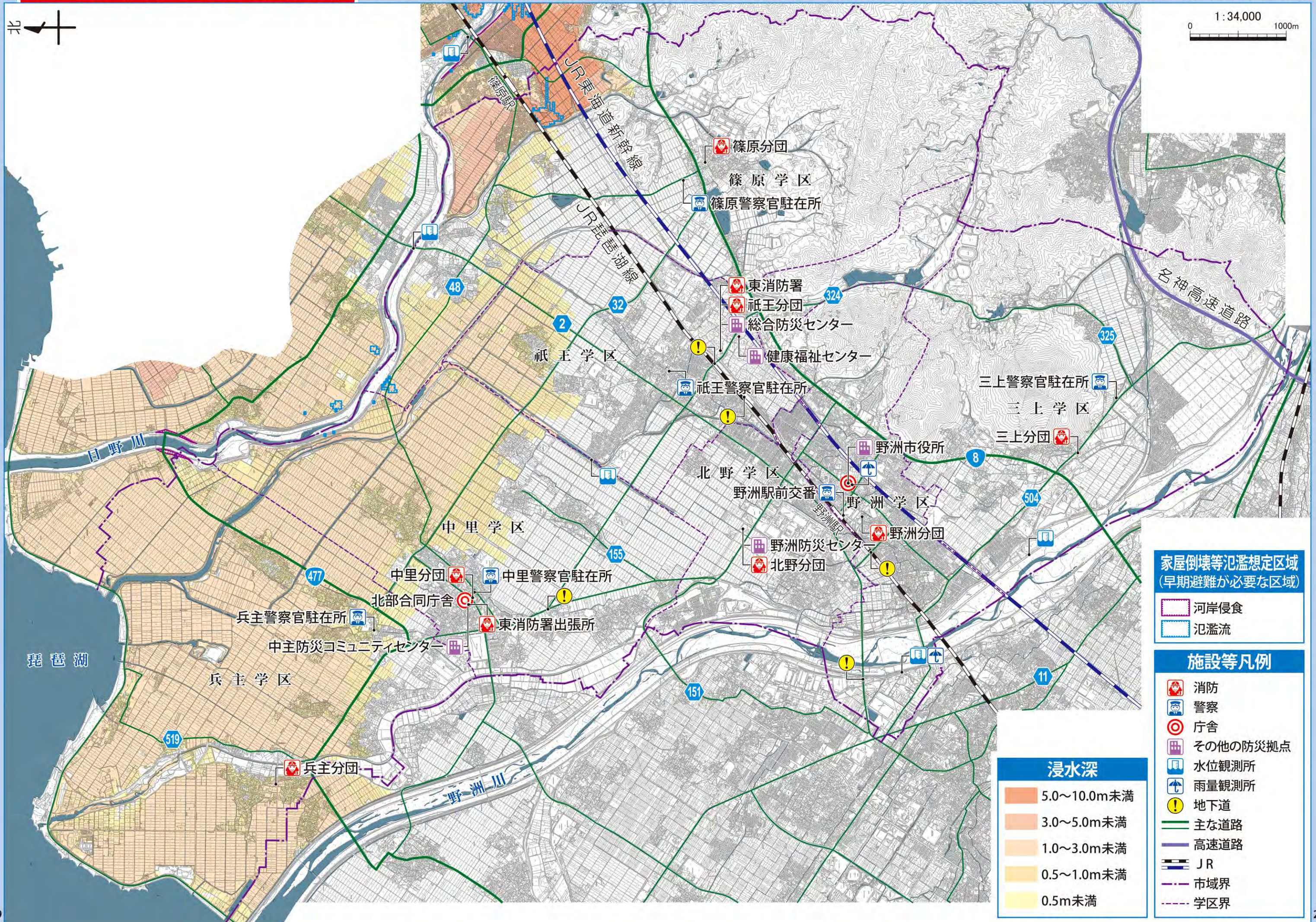
施設等凡例

- 消防
- 警察
- 庁舎
- その他の防災拠点
- 水位観測所
- 雨量観測所
- 地下道
- 主な道路
- 高速道路
- JR
- 市域界
- 学区界

浸水深	
10.0~20.0m未満	
5.0~10.0m未満	
3.0~5.0m未満	
1.0~3.0m未満	
0.5~1.0m未満	
0.5m未満	



1:34,000
0 1000m



家屋倒壊等氾濫想定区域
(早期避難が必要な区域)

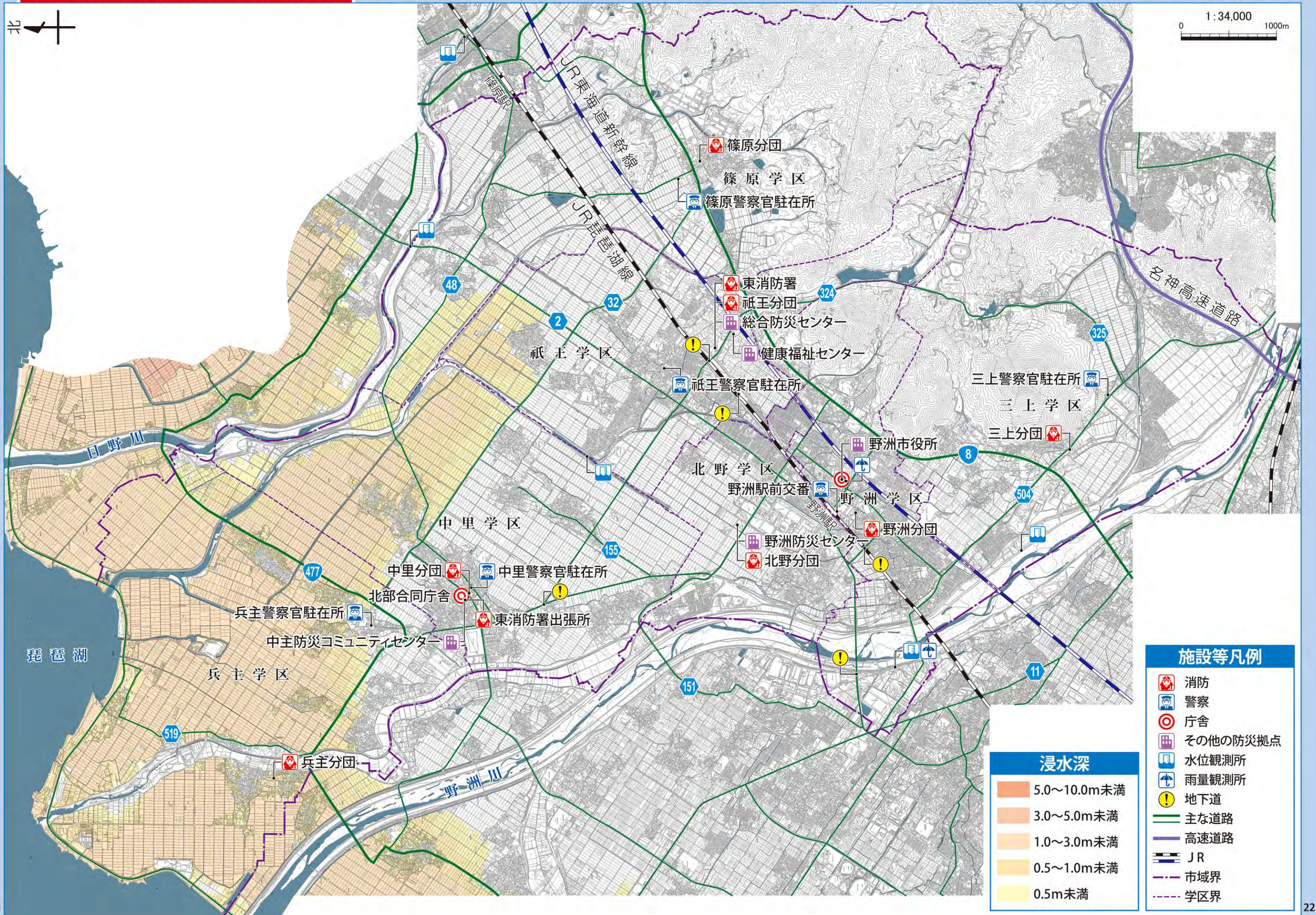
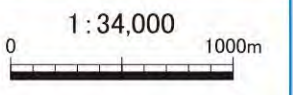
- 河岸侵食
- 氾濫流

施設等凡例

- 消防
- 警察
- 庁舎
- その他の防災拠点
- 水位観測所
- 雨量観測所
- 地下道
- 主な道路
- 高速道路
- JR
- 市域界
- 学区界

浸水深

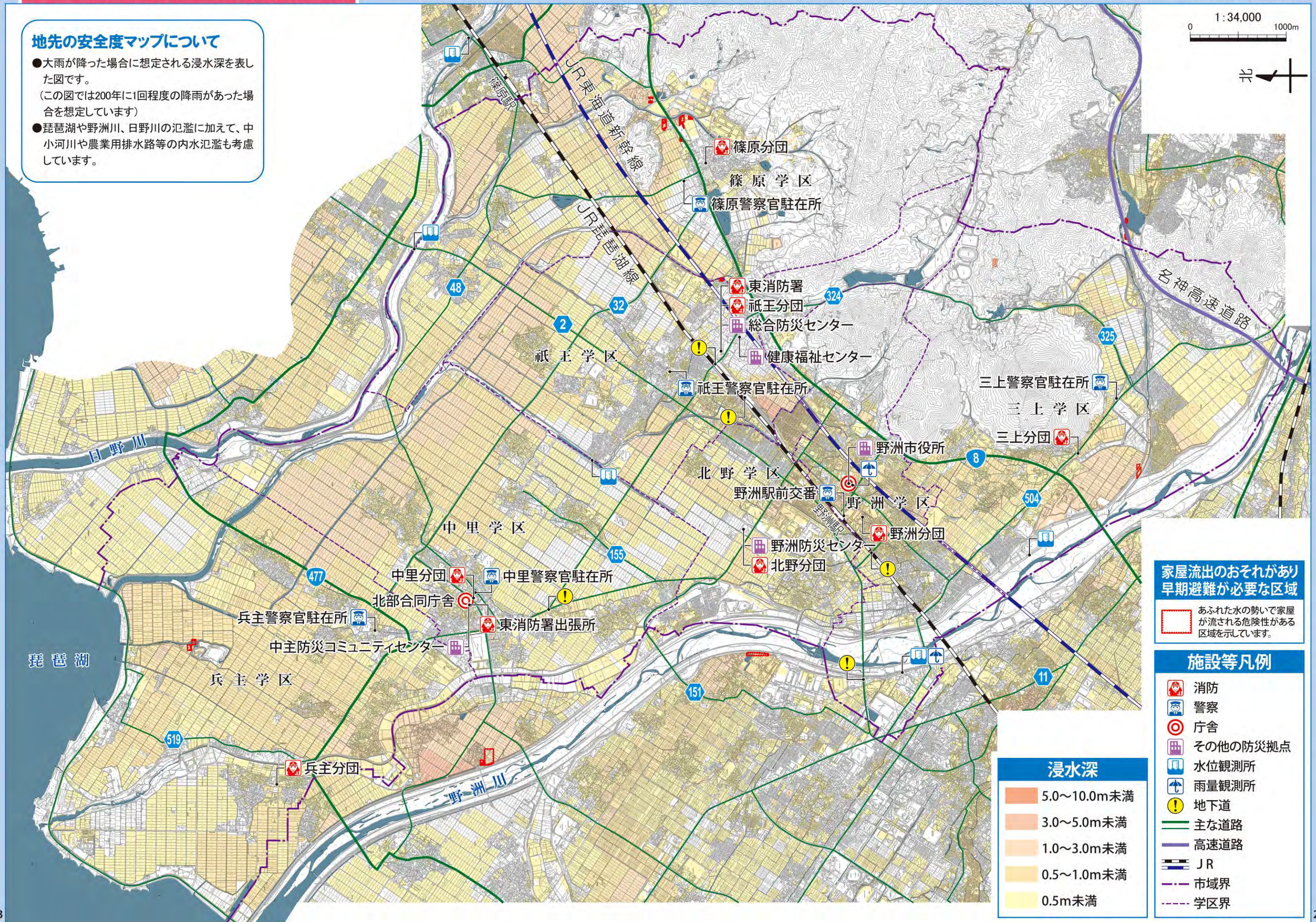
- 5.0~10.0m未満
- 3.0~5.0m未満
- 1.0~3.0m未満
- 0.5~1.0m未満
- 0.5m未満



- 施設等凡例
- 消防
 - 警察
 - 庁舎
 - その他の防災拠点
 - 水位観測所
 - 雨量観測所
 - 地下道
 - 主な道路
 - 高速道路
 - JR
 - 市域界
 - 学区界

地先の安全度マップについて

- 大雨が降った場合に想定される浸水深を表した図です。
(この図では200年に1回程度の降雨があった場合を想定しています)
- 琵琶湖や野洲川、日野川の氾濫に加えて、中小河川や農業用排水路等の内水氾濫も考慮しています。



家屋流出のおそれがあり 早期避難が必要な区域

あふれた水の勢いで家屋が流される危険性がある区域を示しています。

施設等凡例

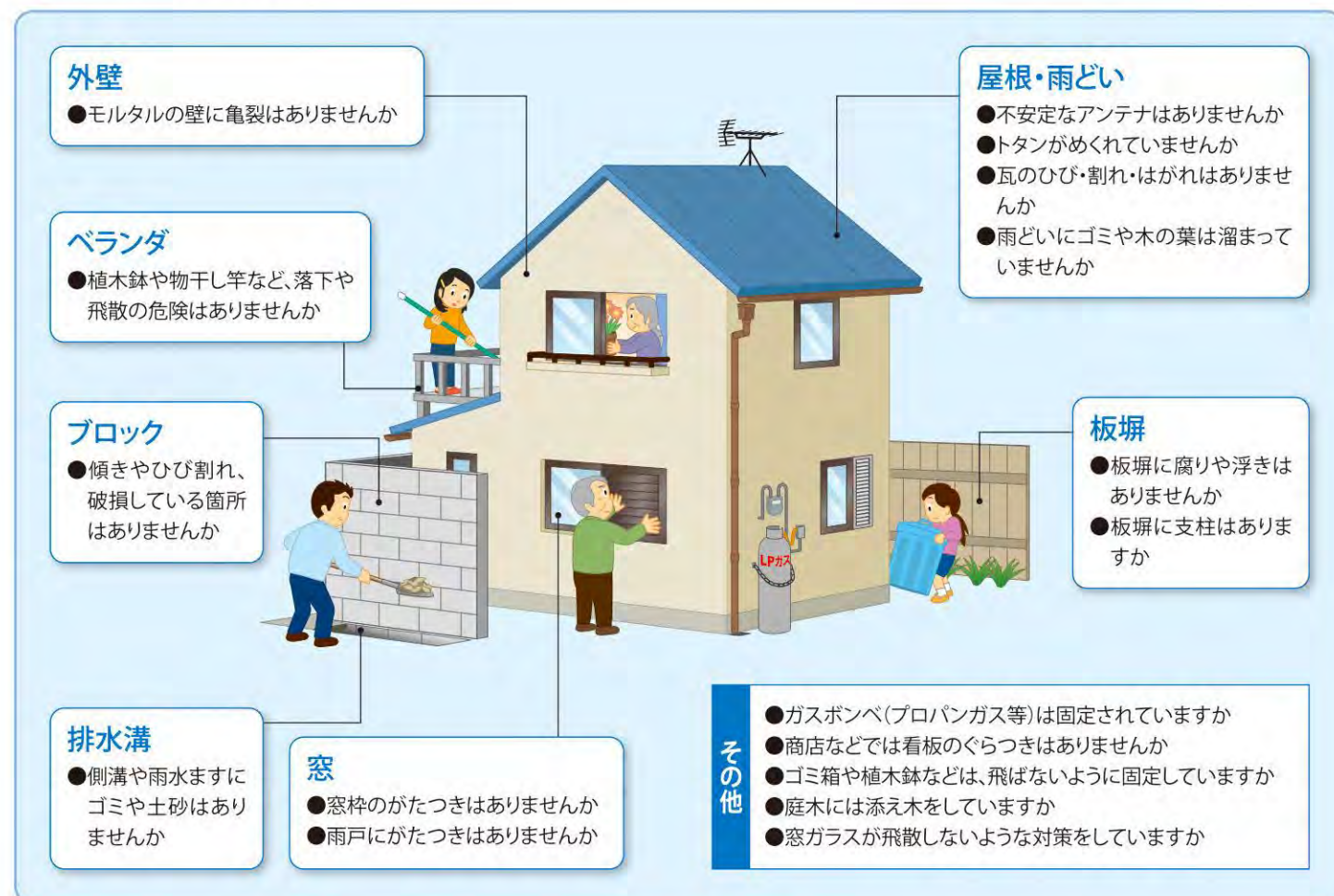
- 消防
- 警察
- 庁舎
- その他の防災拠点
- 水位観測所
- 雨量観測所
- 地下道
- 主な道路
- 高速道路
- JR
- 市域界
- 学区界

浸水深

- 5.0~10.0m未満
- 3.0~5.0m未満
- 1.0~3.0m未満
- 0.5~1.0m未満
- 0.5m未満

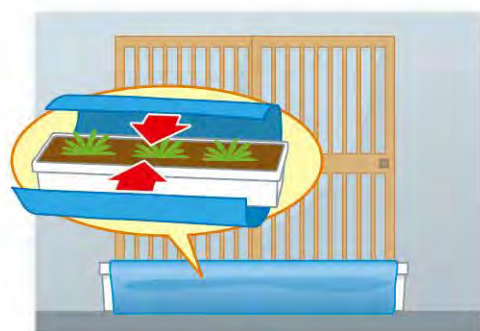
風水害への備え

台風や大雨などによる被害を最小限にとどめるために、日頃から家屋やその周囲の点検・修理・補強を行い、十分な風水害対策を講じておきましょう。



家庭でできる簡易水防

浸水が浅い場合には、土のう(無い場合は水のう)を設置することで、水が建物へ浸入するのを防げます。簡易的な措置として、植栽用プランターや石油用ポリタンク、長めの板(はしごやテーブルでも可)などを、ビニールシートで包んで設置してもよいでしょう。道路よりも建物が低い場合や、地下室がある場合などは、止水板を設置しておく、より効果的です。



簡易水防工法例①
プランター＋ビニールシート

土を入れたプランターをビニールシートで巻き込んだものを使用し、浸水を防ぎます。



簡易水防工法例②
簡易水のう＋止水板

簡易水のうを作り、長めの板などと組み合わせて出入りに設置し、浸水を防ぎます。

「簡易水のう」の作り方



家庭で使用しているゴミ袋(40リットル程度の容量)を二重にして、中に半分程度の水を入れて閉めます。

風が強いとき、大雨のとき、どうすればいいのか

毎年のように台風や集中豪雨によって浸水や土砂災害などの被害が発生しています。しかし、地震と違い、風水害はある程度事前に発生を予測することができます。危険が迫ったら早めに対応しましょう。雨風が強まってきたら、まずテレビやラジオ、インターネット等で発表される気象庁からの注意報・警報・特別警報や、野洲市からの避難に関する情報に注意しましょう。不要不急の外出は控え、危険な場所には近づかないようにしましょう。

風が強いとき



室内

- 風圧や飛来物で、窓ガラスが割れ、破片が吹き込む危険があります。
- 外側から板でふさいだり、内側から養生テープを×印に貼り、カーテンを引いておきましょう。

屋外

- 看板が飛んだり、街路樹が倒れたりする危険があるので、近くの頑丈な建物の中に避難しましょう。

湖岸

- 湖への転落や高波に巻き込まれる危険があります。沿岸に近づかないようにしましょう。
- 強風、豪雨時はサイレンなどの警報が聞こえづらくなりますので十分に注意しましょう。

大雨のとき



室内

- 豪雨の際は、床下・床上浸水の危険があります。家財道具や貴重品を高い場所に移動しておきましょう。
- 地下には避難しないようにしましょう。

車の運転中

- 豪雨で視界が悪くなると非常に危険です。あせらずに安全な場所に移動しましょう。
- 浸水でエンストしたときは、無理に再始動させるとエンジンを傷めてしまいます。

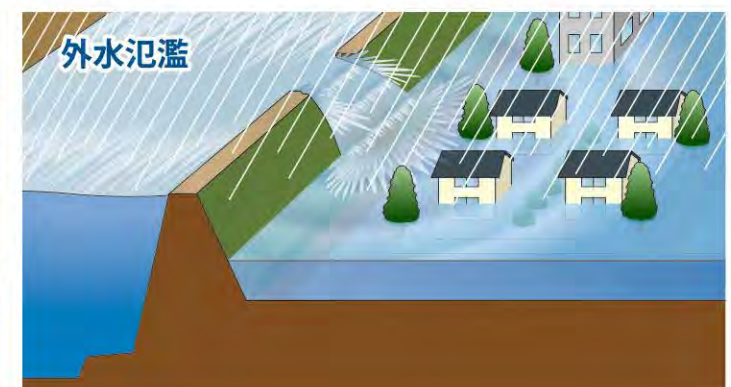
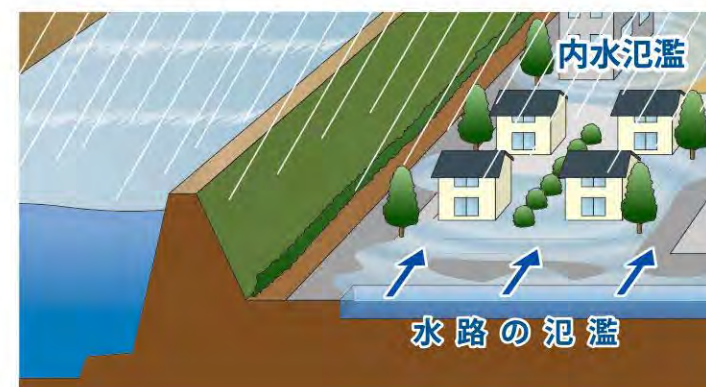
川辺・水路付近

- 急な増水や土砂災害の危険があるので、河川敷から堤防の外に移動しましょう。
- 今いる場所で雨が降っていないくても、サイレンなどの警報が聞こえたらすぐに避難してください。

内水氾濫と外水氾濫

水害には、降った雨が水路や下水道で排水しきれなくなるなどにより起こる氾濫(内水氾濫)と、川の堤防が壊れたり、水があふれたりして発生する氾濫(外水氾濫)があります。まずは、水害の発生するしくみを理解して、避難場所などまで安全に避難できるよう経路を確認しておきましょう。

その場で雨が降ってなくても、川の上流で降った大雨により、下流で氾濫が発生することがあります。



雨の強さ、降り方と災害の危険性など

次の表は、雨の強さと降り方の目安、それに伴う災害の危険性を示したものです。普段から雨の様子に注意し、警報や避難勧告が出る前でも、危険と判断すれば自主的に避難することが大切です。

	やや強い雨 10～20mm未満	強い雨 20～30mm未満	激しい雨 30～50mm未満	非常に激しい雨 50～80mm未満	猛烈な雨 80mm以上
1時間雨量と予報用語					
人の受けるイメージ	●ザーザーと降る。	●どしゃ降り。	●バケツをひっくり返したように降る。	●滝のように降る。 (ゴーゴーと降り続く)	●息苦しくなるような 圧迫感がある。 ●恐怖を感じる。
人への影響と屋外の様子	●地面からはね返り で足もとがぬれる。	●傘をさしていてもぬれる。 ●車の場合、ワイパーを 速くしても見づらい。	●道路が川のように なる。	●傘はまったく役に立たなくなる。 ●水しぶきで、あたり一面が白っぽくなり、視界 が悪くなる。	
災害の危険性	●この程度の雨でも、 長く続くときは注意 が必要。	●側溝や水路、小さな 川があふれ、道路冠 水のおそれがある。 ●小規模のがけ崩れ のおそれがある。	●山崩れ、がけ崩れが 起きやすくなり、危 険地帯では避難が 必要。	●土石流が起こりや すい。 ●多くの災害が発生 する。	●雨による大規模な 災害の発生するお それが強く、嚴重な 警戒が必要。

表に示した雨量と同じであっても、降り始めからの総雨量の違いや、地形や地質の違いによって被害の様子は異なることがあります。この表では、ある雨量が観測された際に通常発生する現象や被害を記述していますので、これより大きな被害が発生したり、逆に小さな被害にとどまる場合もあります。

河川の水位情報

河川の水位が上昇して洪水のおそれがあるとき、避難情報を発令します。各避難情報は、各河川で定められた水位の基準に達するなどの状況から判断し、発令します。

水位の名称等	避難情報等	内 容	日野川						野洲川	童子川
			仁保橋	桐原橋	安吉橋	野洲	河川公園	野洲川	一本橋	
氾濫危険水位	警戒レベル4相当 避難指示の目安	氾濫するおそれのある水位	—	5.10	4.10	4.80	—	—	—	—
避難判断水位	警戒レベル3相当 高齢者等避難の目安	住民の避難の目安 のひとつとなる水位	—	3.80	3.40	4.30	—	—	—	—
氾濫注意水位		水防団などが、水害の発生に備えて出動の目安とする水位	0.93	3.00	2.70	3.50	2.00	1.50		
水防団待機水位		水防団などが、水防活動に入る準備を行う目安とする水位	-0.17	1.80	1.80	2.50	1.50	0.65		
ふだんの水位										

単位:m

大雨時の情報

下記のような場合、気象庁から「注意報」「警報」が発表されます。さらに、警報の発表基準をはるかに超える豪雨等が予想され、重大な災害の危険性が著しく高まっている場合、「特別警報」が発表され、最大限の警戒を呼び掛けます。

※「特別警報」が発表されない場合でも、甚大な被害が発生する可能性があります。

大雨・洪水注意報	大雨・洪水警報	大雨特別警報
災害が発生するおそれがある	重大な災害が発生するおそれがある	「警報」よりも、はるかに高い危険度
大雨 大雨により、浸水災害や土砂災害などが発生するおそれがあると予想したときに発表。	大雨 大雨により、 重大な浸水災害や重大な土砂災害 などが発生するおそれがあると予想したときに発表。	大雨 台風や集中豪雨により 数十年に一度の降雨量 となる大雨が予想されるときに発表。
洪水 大雨、長雨、融雪などにより、河川の増水や氾濫、堤防の損傷や決壊による災害が発生するおそれがあると予想したときに発表。	洪水 大雨、長雨、融雪などにより、河川の増水や氾濫、堤防の損傷や決壊による 重大な災害 が発生するおそれがあると予想したときに発表。	「洪水」は、全国約400の河川において指定河川洪水予報を発表しているため、特別警報の設定はありません。

記録的短時間大雨情報

数年に一度しかないような、短時間の猛烈な雨が観測された場合には、気象台から、「記録的短時間大雨情報」が発表されます。この情報が発表された地域では、周囲の状況や雨の降り方に注意し、少しでも危険を感じた時はすぐに安全な場所へ避難しましょう。

土砂災害警戒情報とは



土砂災害警戒情報とは、大雨警報の発表中に、土砂災害発生危険度が高まったとき、滋賀県と彦根地方気象台が共同で発表する情報です。

土砂災害警戒情報が発表されたら、土砂災害に厳重に警戒し、市からの情報を入手して避難してください。また、土砂災害警戒情報が発表されていなくても、地形や地質の条件により土砂災害が発生するおそれがあるため、その他の防災情報などにも十分注意しながら、避難行動をとってください。

滋賀県 土木防災情報システム

<https://shiga-bousai.jp/>

滋賀県 防災 検索



▲土砂災害の危険度情報は、滋賀県がインターネットで公開している「滋賀県土木防災情報システム」で確認することができます。

※上記URLか、右のQRコードからご確認ください。

土砂災害から身を守るために

災害では早めに避難することが大事ですが、どうしても避難場所への移動が困難なときは、次善の策として近くの頑丈な建物の2階以上に緊急避難するか、それも難しい場合は家の中でより安全な場所(がけから離れた部屋や2階など)に避難しましょう。

3つのポイント

住んでいる場所が「土砂災害(特別)警戒区域」かどうか確認

雨が降り出したら土砂災害警戒情報に注意

危険を感じたら早めに避難

避難場所等への移動がどうしても困難な場合は…



土砂災害の種類

土砂災害は、すさまじい破壊力を持つ土砂が、一瞬にして多くの人命や住宅などの財産を奪ってしまう恐ろしい災害です。土砂災害から身を守るために、ハザードマップで自分が住んでいる場所の周辺で土砂災害発生の可能性がある場所を確認しましょう。

急傾斜地の崩壊

土砂災害特別警戒区域

土砂災害警戒区域

- 雨で地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、斜面が突然崩れ落ちる。
- 前ぶれもなく突然起こることが多く、スピードも速いため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人が多く死者の割合も高くなる。
- 地震が原因で起きることもある。

土石流

土砂災害特別警戒区域

土砂災害警戒区域

- 大量の土・石・砂などが集中豪雨などの大量の水と混じりあって、津波のように出てくる。
- 流れの先端部に大きな石があることが多いため、破壊力も大きくスピードも速いので悲惨な被害を及ぼす。

地すべり

土砂災害特別警戒区域

土砂災害警戒区域

- 粘土などのすべりやすい層を境に、その地面がそっくりズルズル動き出す。
- 地割れで田畑や家が壊されたり、押し出された土砂や地面の移動のために、道路や建物が広い範囲で被害を受ける。

土砂災害警戒区域

土砂災害が発生するおそれがあり、発生した場合、住民に危害が生じるおそれがある区域。

土砂災害特別警戒区域

土砂災害警戒区域のうち、土砂災害が発生した場合に建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域。

避難の心得

いざという時のために、日頃から避難に必要なものを整理し、避難の手順について話し合っておきましょう。また、災害の危険性が想定された場合には、情報を入手して、早めの避難を心がけましょう。

	状況により、すばやく避難しましょう 避難の準備を心がけ、市からの指示があれば、すばやく避難しましょう。		外出中の家族には連絡メモを残そう 「どこどこへ避難する」といったようなメモを残しておくとい良いでしょう。
	防災メモを持とう 特に高齢者や子どもは、事前に住所、氏名、連絡先などを記載したメモを用意し、身につけて避難しましょう。		集団で避難しましょう 単独での行動は避け、近所の人たちと集団で決められた場所へ避難しましょう。
	浸水時、自動車での避難は危険 普通自動車は約30cmの浸水で走行困難になります。浸水時、自動車での避難は危険です。		安全なルートで避難しましょう 川べり、地下歩道などは避け、できるだけ安全な広い道を選びましょう。
	持ち出し品は最小限に 非常持ち出し品はリュックサックにまとめ、両手が自由に使えるようにしましょう。		避難所では係の人の指示に従いましょう 指定避難所に着いたら、住所、氏名などを報告しましょう。

避難行動判定フロー

あなたがとるべき避難行動は？

平時に確認

「避難行動判定フロー」を「野洲市防災マップ」と合わせて確認し、居住する地域の災害リスクや住宅の条件などを考慮した上で、とるべき避難行動や適切な避難先を確認しておきましょう。

防災マップ※で自分の家がどこにあるか確認し、印をつけてみましょう。

※防災マップは浸水や土砂災害が発生するおそれの高い区域を着色した地図です。着色されていないところでも災害が起こる可能性があります。

家がある場所に色が塗られていますか？

いいえ

色が塗られていなくても、周り比べて低い土地や崖のそばなどにお住まいの方は、市区町村からの避難情報を参考に必要に応じて避難してください。

はい

災害の危険があるので、原則として自宅の外に避難が必要です。

例外

■ 浸水の危険があっても、次のような場合は自宅に留まり安全確保をすることも可能です。

- ▶ 洪水により家屋が倒壊、または崩落してしまうおそれの高い区域の外側である。
- ▶ 浸水する深さよりも高いところにいる。
- ▶ 浸水しても水・食糧などの備えが十分にあり、水がひくまで我慢できる。

■ 土砂災害の危険があっても、十分堅牢なマンション等の上層階に住んでいる場合は自宅に留まり、安全確保をすることも可能です。

ご自身、または、一緒に避難する方は避難に時間がかかりますか？

はい

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

はい

警戒レベル3が出たら、安全な親戚や知人宅に避難しましょう。(日頃から相談しておきましょう)

いいえ

警戒レベル3が出たら、市区町村が指定している指定緊急避難場所に避難しましょう。

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

はい

警戒レベル4が出たら、安全な親戚や知人宅に避難しましょう。(日頃から相談しておきましょう)

いいえ

警戒レベル4が出たら、市区町村が指定している指定緊急避難場所に避難しましょう。

水平避難と垂直避難

災害では早めの避難が重要です。ただし、すでに避難経路が浸水しているなど、危険が間近に迫っている状況での無理な避難行動はできるだけ避けなければいけません。そのような場合は、避難場所への移動(水平避難)だけでなく、近隣の高い建物や自宅の2階といった高い場所への移動(垂直避難)を行い、救助を待つという判断も必要です。また、土砂災害の危険性がある地区では、屋内でも山と反対側に避難を行うことも必要です。

